

「遥かな未来へ」これは今年度の東高校案内のタイトルです。まさに、創立から二十四年が経ち、これから東高校を象徴している言葉だと思います。本校は新しい構想に基づいた県内のモデル校として、昭和五十五年に一学年普通科六学級の男子校として開校しました。また、平成七年度からは男女共学となり、本校の新しい歴史を刻んでいます。本校は開校当初から「文武両道」を掲げ、先生方とともに、本校の新しい歴史を刻んでいます。

福島東高等学校同窓会会長 尾形幸男

生徒が一体となって現在では県内でも有数の実践校として認知されるまでになりました。平成十五年度の部活動加入率は全学年平均で八四%あり、特にサッカー部の全国的な活躍は皆さんもご存知のことと思います。また、運動部だけでなく、合唱部は県大会で金賞を獲得したり、吹奏楽部も毎年上位入賞を狙えると聞いてあります。さらに現役大学進学率においては平成十三年度は七七・六%、平成十四年度は七〇・三%、平成十五年度は七五・一%と見事に「文武両道」を実践しているのです。地理的な環境にも恵まれ、各関係機関や地域の方々から温かく見守られてここまで成長することができました。



創刊の辞

福島東高等学校同窓会会長

尾形幸男

このような東高の状況の中で、私が個人的にうれしいのは現在も校内マラソン大会が開催されており、男子は十km、女子は七kmで健脚を競っているということです。県内各高校でも交通事故や健康問題等で校内マラソン大会が消滅していく中、これだけの距離を毎年走り続けている、我が後輩たちを誇りに思います。（勿論、大会を運営してくださる先生方のご苦労には感謝です）

この経験は一生、東高校のよき思い出として残ることは間違いないでしょう。そしてもう一つは「東桜祭」に対する生徒の熱意です。三年に一度の公開は創立からの伝統ですが、前回も挙見させていただき、私でさえも見させていただきました。つまり、一つの大きな行事に掛ける生徒たちの情熱はある頃と全く変わっていないということです。女子が入り新しい風を運び、伝統を重ねている現在でも我々と同じスピリットを持ち、日々精進し



発行	福島東高等学校同窓会
住所	福島市浜田町12-21 (024) 531-1551
発行人	尾形幸男
編集	福島東高等学校同窓会事務局
印刷	吾妻印刷

ている後輩がいるということ」心から喜びを感じるのです。

さて、同窓会活動ですが、現

在までの卒業生は七五六四名（平成十五年度卒業生まで）に達しており、すでに一期生は四十歳を超え、各分野の中堅として活躍しています。

会員の皆様方にはサッカー全国大会へ向

ての趣意金等、「協力をいただ

き誠にありがたうござります。

やはり、後輩から勇気と感動を

与えてもらっていますので、同

窓会といったしましても更なる向

上を図らなければならないと考

えております。そのために、来

年開催予定の同窓会総会では、

同窓会規約を含めいくつかの事

業案を提出させていただきたい

と思っています。その一環とし

て、今回、同窓会会報を年一回

作成し、現在の東高校、先生方

の様子、同窓会会員の動向、同

窓会活動の紹介等を会員の皆様

にお伝えすることによって、ま

ずは、同窓会をもつと身近に感じ

てもらいたいと考えました。

今回の創刊にあたりましては、各関係各位から多大なるご協力

をいただいております。これも、東高と同窓会の更なる発展に期待をしていただいているものと

真摯に受け止め、同窓会員がひ

とつになり活動を盛り上げてい



きたいと思つております。今後とも、同窓会活動に対し、積極的に参加してくださるようお願いいたします。尚、会報作成にあたつては、東高同窓生の教員が現在東高に勤務しておりますので、その先生方のご協力によつて進めさせていただきます。

最後になりますが、平成十六年春の叙勲で本校開校の為にご尽力をいただいた三浦賢一先生が多年にわたる本県高等学校教育発展へのご功績が認められ、瑞宝小綬章の栄に浴されました。誠におめでたくご同慶の至りに存じます。先生は本校校長を最後にご退職され、その後、伊達町教育長・福島家庭裁判所調停委員など、現在も幅広く地域の振興・教育文化の発展に尽力しておられます。私たちも恩師に負けないよう頑張らなければならぬことを肝に銘じ、創刊の辞といたします。



福島東高等学校長 深澤陽一

はげしい心うつくしくせよ 青春時代

マは文武両道であったように思っています。どのように自分で、部活動と勉強を両立させて努力できるか。恐らく、本校に学ぶ多くの生徒の解決すべき中心課題であつたと思います。

現在、各学年八クラス、生徒数九五六名になります。一年生早いもので、本校は創立以来四半世紀、二十五年を迎えることになりました。十五年間が男子校、十年間が男女共学校ということになります。

今年三月の一二期生の卒業によつて、あわせて七九二三名の同窓生を数えることになりました。これまで同窓会では、さまざまな事業をしてきましたが、今回初めての同窓会報が発行され、皆様に母校のいろいろな様子をお知らせできることになりました。私は創立の一年目から四年間本校にあり、三期生を担任しました。昨年四月、久しづに本校に戻つて、生徒たちが、東高が着実に成長してきている姿を見て、大変うれしく思っています。振り返つてみますと、二十五年間変わらず、本校の中心テー

伝統である、現役大学合格がもそのままです。そして、素晴らしいのは、大部分の生徒がぎりぎりまで部活動をしていたということです。このことが、本校の力の源になっているのです。

五月一日の調査では、文武両道の実現を目指して、全生徒の八五%が部活動に加入しています。運動部六三%、文化部一二%です。特徴としては、特に男子の運動部加入率が高いことがあげられます。一年で見ると男八六%女三九%が運動部、男六三%、女三七%、三年生男五七%、女四三%の割合です。

男女共学が安定していたここ五年ぐらいは、三年生の割合に示すように、男六〇%弱、女四〇%強程度で推移していました。現在は、男子の割合が年々高くなる傾向にあります。この背景としては、福高、橘高（旧福女）が昨年より男女共学になり、福高、橘高、東高の三校が、同じ共学の進学校として、特色づくりに、進学実績づくりに競争していることがあります。

進学実績では、大健闘をしています。国公立現役大学合格者は十六年度は一五三名（県第二位）と実績を残しています。本校の選手権に出場しました。今回は残念ながら二回戦で敗退しましたが、東京と横浜での試合で、懐かしい人に会いました。それは三期生で、私のクラスだった大井君と丹治君でした。一人とも茨城から応援に駆けつけていたのです。卒業以来十九年ぶりに出会つての話の中で、同窓生の皆さん方が、今回のサッカーの全国大会での活躍をどれほど喜んでいたか、「Jのことを通して、東高の卒業生であることを誇りに感じたかを聞き、生徒たちの活躍を、こんなにも同窓生が喜んでくれるのだと知りました。多くの皆さんに、「支援をいたい」ということを心より感謝しています。

第一に、「同窓会会報」の発行です。その目的は、東高の様子、同窓生の活躍の様子などを伝えことです。現在の在校生は創立以来の「文武両道」を実践し、勉強に、部活動に一生懸命に取り組んでいます。また、各界での同窓生の活躍は目覚ましいものがあります。

第二に、「同窓会名簿」の整備です。現在の会員数は約七、九〇〇名ですが、現在の名簿では約九〇〇名の宛先不明者がいます。また、卒業時の住所になつてゐるため、転送などで保護者に迷惑をおかけしています。この名簿が不備では、円滑な同窓会活動を行うことができません。そこで、実態に即した名簿を作成したいと考えています。なお、この名簿は刊行せず、事務局が二年連続で全国高校サッカー

な機会に、同窓生の皆さんとお会いできる」と願っています。

同窓会の活動について

私たちが母校である福島県立福島高等学校は、今年で創立二十五年目を迎えました。この節目を機に、今後、本会では次の活動に取り組んで行くことが六月に行われた理事会で決定されたことを報告します。

第一に、「同窓会会報」の発行です。その目的は、東高の様子、同窓生の活躍の様子などを伝えことです。現在の在校生は創立以来の「文武両道」を実践し、勉強に、部活動に一生懸命に取り組んでいます。また、各界での同窓生の活躍は目覚ましいものがあります。

第二に、「同窓会名簿」の整備です。現在の会員数は約七、九〇〇名ですが、現在の名簿では約九〇〇名の宛先不明者がいます。また、卒業時の住所になつてゐるため、転送などで保護者に迷惑をおかけしています。この名簿が不備では、円滑な同窓会活動を行うことができません。そこで、実態に即した名簿を作成したいと考えています。なお、この名簿は刊行せず、事務局が二年連続で全国高校サッカー

生時代の、前向きな気持ちを思いたいと思つています。

いだして、美しく生きていただ

きたいと思つています。いろいろ

福島県立福島東高等学校同窓会規約改正案

[名称および事務局]

第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]

第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。

1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会員]

第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。

[役員]

第5条 本会に次の役員をおく。

1. 会長 1名
2. 副会長 4名
3. 理事 若干名
4. 監事 3名
5. 幹事 若干名

第6条 役員の選出は次のとおりとする。

1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。

第7条 役員の任務は次のとおりとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。

第8条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]

第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮詢に応ずる。

[総会]

第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。

1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数をもつて決定する。

第13条 総会はその権限の一部を理事会に委任することができる。

[理事会]

第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。

第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]

第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。

第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会計]

第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。

第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。

第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。

第21条 年度会計決算並びに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。

この規約は平成 年 月 日から改正する。

太字が改正箇所

今後検討していきます。
第三に、「同窓会規約」の改正です。現行の「規約」を現状に合わせた形にするために、若干の改正をしたいと考えています。また、副会長、監事の定数を増員したいと考えています。第四に、総会の開催です。本会には懸案事項がいくつあります。例えば、在校生への支援をどうするかなどです。二月に総会を開催する予定です。

【同窓会名簿の作成について】
十月十九日に本校一年生を対象に行なう。十周年記念事業をどうするのか、同窓会積立金（約二、七〇〇万円）の運用をどうするのか、「同窓会名簿」の運用についてなどです。これらを審議するために来年二月に総会を開催する予定です。

象に進路講座を実施します。様な職業の講師に各人の仕事について話を聞いていただく企画です。そこに三名の同窓生が講師として招かれる予定です。今後、本校のこうした教育活動に本会が協力していくためにも「協力をお願いします。

（目的）
福島東高の教育活動を同窓会が主導的に支援するため。
福島東高の要請に同窓会が対応できるようにするため。
（名簿の内容）
現在の住所（連絡先）
現在の職業
（職種・仕事内容など）
在籍時の所属部活動
（作成の方法）
同封のハガキに必要事項を

平成15年度 福島県立福島東高等学校同窓会 収入支出決算書

収入額	2,467,995円
支出額	1,340,612円
残額	1,127,383円

単位：円

1. 収入

科目	当初見込額	決算額	増減	備考
入会金	720,000	718,000	△ 2,000	2,000円×359人
会費	1,080,000	1,077,000	△ 3,000	3,000円×359人
前年度繰越金	666,494	666,494	0	
雑収入	10,000	6,501	△ 3,499	預金利息
合計	2,476,494	2,467,995	△ 8,499	

2. 支出

科目	当初予算額	決算額	残額	備考
需要費	350,000	176,777	173,223	丸筒 旅費等
役務費	250,000	163,835	86,165	広告 通信費
慶弔費	0	0	0	12年度よりカット
予備費	376,494	0	376,494	
積立金	1,500,000	0	1,500,000	同窓会基金
特別協賛費	0	1,000,000	△ 1,000,000	サッカー全国大会
合計	2,476,494	1,340,612	1,127,383	

「サッカー全国大会」の同窓会からの協賛として今年度分の「積立金」を「特別協賛金」として項目をたて充当しました。

平成16年度予算案については、理事会（11月）で承認の後、総会に提示します。

記入の上、十一月十三日(土)までに投函してください。
事務局がまとめ、担任の先生方の協力をいただき、不備な点を補います。
の作業を数年継続して務局が管理をします。
* 完成させます。
完成した名簿は刊行せず、事

年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期 S57年	2期 S58年	3期 S59年	4期 S60年	5期 S61年	6期 S62年	7期 S63年	8期 H1年	9期 H2年	10期 H3年	11期 H4年
学級数	6	6	6	6	8	8	8	8	9	9	9
卒業者数	(281)	(265)	(262)	(283)	(365)	(361)	(372)	(376)	(427)	(423)	(431)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78	65	88	109
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259	188	278	291

卒業年度	12期 H5年	13期 H6年	14期 H7年	15期 H8年	16期 H9年	17期 H10年	18期 H11年	19期 H12年	20期 H13年	21期 H14年	22期 H15年
学級数	9	9	9	8	8	9	9	9	9	9	9
卒業者数	(421)	(408)	(403)	(357)	(354)	(351)	(354)	(362)	(350)	(358)	(359)
国公立大	96	109	85	109	113	114	145	150	115	165	153
私立大	333	299	418	413	327	313	311	346	349	247	248

〈学校種別合格者数〉 平成 11・12・13・14・15 年度生

	18期	19期	20期	21期	22期
国 公 立 大 学	145	150	115	165	153
私 立 大 学	311	346	349	247	248
準 大 学	0	0	0	1	0
短 期 大 学	22	27	10	18	22

〈大学別合格者数〉 平成 11・12・13・14・15 年度生

	大学名	18期	19期	20期	21期	22期
国 立 大 学	北海道大	0	1	0	0	0
	弘前大	3	0	0	1	1
	岩手大	4	10	5	2	4
	東北大	7	2	5	2	4
	宮城教育大	0	0	0	2	2
	秋田大	4	3	0	4	1
	山形大	18	8	16	19	13
	福島大	35	50	40	39	46
	茨城大	9	8	1	7	3
	筑波大	0	1	1	1	4
	宇都宮大	4	4	2	13	13
	群馬大	4	2	1	1	2
	埼玉大	1	1	3	8	8
	千葉大	4	3	1	4	1
	電気通信大	1	2	0	1	1
	東京大	0	0	0	1	0
	東京外国语大	0	0	0	1	2
	東京海洋大	0	0	0	1	0
	東京学芸大	0	0	0	2	1
	東京農工大	0	1	1	0	0
公 立 大 学	一橋大	0	1	0	0	0
	横浜国立大	1	0	1	0	1
	新潟大	7	5	7	12	5
	上越教育大	0	0	1	0	1
	金沢大	1	0	0	1	2
	山梨大	0	1	1	0	1
	静岡大	2	1	2	0	1
	京都大	0	1	0	0	0
	その他	8	7	2	6	1
	計	113	112	90	128	118
	釧路公立大	3	2	0	1	2
	青森公立大	0	0	0	1	1
	岩手県立大	3	3	0	2	4
	宮城大	0	1	2	4	2
	秋田県立大	2	9	3	2	0
	山形保健医療大	0	1	0	2	0
	県立医大(看護)	3	5	2	2	5
	会津大	6	2	4	7	7
	高崎経済大	8	7	9	7	8
	横浜市立大	0	1	0	1	1
	都留文科大	4	2	1	3	2
	その他	3	5	4	5	3
	計	32	38	25	37	35

現在の東高（進路状況）

野中 幹夫

年度別現役合格者延べ人数の表を見るとわかると思いますが、一八期以降、一五〇人前後の合格者を出すようになりました。また、二期、三期は特に国立大学希望が多く、私立大学の受験者数が減少し、合格者数も減少しました。最近の経済情

勢が関係しているものと思います。この傾向は、しばらく続くものと思われます。

次に、最近五年間の大学別合格者数の表を見るとわかると思いますが、東日本全域にわたっての地位を確立しました。今後、さらに、生徒の進路希望実現のために、学校一丸となって努力していきたいと思います。

	大学名	18期	19期	20期	21期	22期
私 立 大 学	盛岡大	6	1	2	4	5
	東北学院大	40	48	20	16	37
	東北工業大	5	5	6	4	1
	東北福祉大	9	21	10	8	13
	東北薬科大	1	2	4	2	2
	国際医療福祉大	4	2	3	2	1
	獨協大	1	2	8	6	5
	文教大	4	16	5	2	4
	青山学院大	2	0	10	0	0
	学習院大	1	0	2	0	3
	國學院大	3	6	4	0	2
	駒澤大	7	2	0	3	4
	国際基督教大	1	0	0	0	0
	芝浦工業大	2	2	5	0	0
	上智大	1	0	0	0	0
	成蹊大	0	3	3	1	2
	専修大	9	11	12	12	11
	大東文化大	4	6	9	3	3
	玉川大	3	2	0	0	2
	中央大	2	7	5	8	5
大 学	東海大	1	6	19	8	11
	東京女子大	2	0	1	3	3
	東京電機大	8	3	6	2	2
	東京農業大	2	3	4	2	0
	東京理科大	6	3	2	0	1
	東洋大	7	17	6	3	6
	日本大	34	29	30	19	14
	日本女子大	0	1	0	4	0
	法政大	5	6	6	3	6
	武蔵大	0	7	4	3	3
	武蔵工業大	3	5	2	2	0
	明治大	7	7	8	9	4
	明治学院大	0	0	3	2	2
	立教大	1	0	1	2	2
	早稲田大	0	1	3	3	1
	神奈川大	8	5	12	9	7
	関東学院大	4	2	4	0	2
	同志社大	1	0	0	0	0
	立命館大	1	2	0	1	1
	その他	116	113	130	101	83
	計	311	346	349	247	248

進路

部 活 動 報 告

15年度

- 野球部
3回戦 対日大東北高 2 : 5 敗
 - サッカー部
選手権県大会決勝 対郡山北工 2 : 0 優勝
全国大会 2回戦 対丸岡高 1 : 1 PK 2 : 4 敗
 - 卓球部
県大会 男子団体 2回戦 対安達高 0 : 3 敗
 - 陸上部
全国大会走高跳 10位 遠藤哲也
100mH 国分優佳
100m 清野哲一
 - バスケットボール部
県大会男子 2回戦 対福商高 56-75 敗
女子 2回戦 対会津学鳳高 47-83 敗
 - 柔道部
県大会男子ベスト16
 - バレーボール部
県大会男子ベスト8
女子 2回戦 対双葉高 0 : 2 敗
 - ソフトボール部
県大会3位
 - バドミントン部
県大会1回戦敗退
 - 剣道部
県大会予選敗退
 - 水泳部
県大会200m背泳ぎ 4位 高木竜馬
 - テニス部
県大会女子団体戦ベスト8
文化部もそれぞれにおいて活躍。

16年度 前期

- サッカー部
プリンスリーグ参加
県大会準決勝 平工業高 0 : 1 敗
 - 陸 上 部
県大会女子総合 3 位
・女子 4 × 100m R
・女子走り幅跳び 保住理紗
・女子100mH 国分優佳
以上全国大会出場
 - バスケットボール部
県大会男子 1 回戦 対日大東北高 68 : 70 敗
 - バレーボール部
県大会男子 2 回戦 対会津工 敗
 - ハンドボール部
県大会男子 3 位
 - 剣 道 部
男子団体 3 回戦 対磐城高 敗
 - 柔 道 部
県大会男子個人 81kg 2 位 尾形泰道
東北大会 2 回戦敗退
 - 卓 球 部
県大会団体男女 1 回戦敗退
県北地区総体団体男子 初優勝
 - ソフトボーラー部
県大会 3 位
 - 合唱部・吹奏楽部
東北大会出場(吹奏楽部は11年ぶり出場)

生徒会

東高校生徒会の一年の活動について紹介する。生徒会の任期は半年、五月と十一月に選挙がある。

吹奏樂部

学会があるからだ。さらには六月の東桜祭の実行委員としての活動も加わる。東桜祭は一年で最も大きなイベントだ。そのため全校生徒が一丸となつて企画、運営に精一杯汗を流す。

嵐のような七、八、九月を経ると、十一月にまた選挙、新しい体制で始動する。十二月の冬のスポーツ後、年を越すと、一、二月は校内アンケートを行なつたりして、学校の制度を変えるような活動をする。三月に入ると予算審議と翌年の新入生オリエンテーションの準備を始め、一年が終わる。生徒昇降口西側の生徒会室では、今日も東高向上的ために生徒会一同頑張つてます。

四月上旬、新入生オリエンティー
ションで、新入生を迎へ、特別
活動や年間行事を説明する。部
活動紹介は毎年、爆笑の渦が巻
き起こる。どの部活も勧誘に必
死だ。下旬になると生徒総会。
昨年度の反省と今年度の目標を
全校生徒で確かめる。

りたくて東高に入りました。吹奏楽部は、入って正解!!と思える場所でした。まず、こんなに多くの人達との出会いがあつたこと。これは私の財産です。いつも私達を支えて下さった保護者の方々や先生方、先輩方、後輩達には感謝の気持でいっぱいです。本当にありがとうございました。そして、三年間この部で苦楽を共にし、色々なことを経験してきた三十人の三年生は信頼できる最高の仲間達だと思います。そして、多忙ながらもいつも真面目な努力を続けたいと思います。

十一年ぶりの東北大会、部員の中に出場経験のある人はいません。未知の世界ではありますが、自分達で試行錯誤しながら東高吹奏楽部の新たな一步を踏み出しますと、思います。そして、全国大会が行われる普門館めざして

男子バスケットボール部

僕にとって部活動での三年間はとてもかけがえのないものです。
素晴らしい仲間、そして尊敬できる先生にも出会えました。
また、部長という貴重な体験を通して一つ大きくなれたように思います。日々の練習はきつくて苦しかったけれど、とても充実した毎日を送ることができました。
これから僕は応援される方から応援する方へと変わります。
その中で後輩達の活躍に期待し、少しでも彼らの力になりたいと思います。また、卒業した後でもどんな形であれ大好きなバスケットボールに関わっていきたいです。

剣に私達を指導して下さった恵一先生には、本当に感謝しています。ありがとうございます!!!

最後に、僕達三年生を支えてくれた保護者の方々、技術だけではなく人としてすごく大切な事を教えて下さった菊田先生、練習の相手や試合で応援して下さった先輩方にとても感謝しています。本当にありがとうございました。

柔道部

入部してから引退するまでの二年間は本当にあつとう間だつた。毎日勉強との両立で本当に

自分を知り自分を信じることが上達への近道だと思います。これからも健闘を期待しています。頑張って!!

陸上競技部

での大きな目標が二つあった。それは、二つ年上の兄と団体戦のスタメンとして出場すること、もう一つは東北全国大会に出場することだった。この二つの目標を達成するために日々の練習に励んだ。途中ランプなどでも目標を断念しそうになったり部活を辞めようと思うこともあったが何とか乗り越えた。その結果、全国大会出場は逃したもの

この目標を達成することができた。この部活動生活は目標を達成したということも大きな成果であるが、それ以上に大切なものを得ることができた。それは言葉には言い表わすことはできないが私の心や体に刻まれている。このようなものを得ることができ、悔いなく部活動生活を送ることができたのも家族や先生、友達、先輩、後輩等たくさんの人に支援してもらつたおかげで

あるのでお礼を言いたい。そして私を人間的にここまで成長させてくれた柔道にも感謝している。これから的生活は福島東高校柔道部で培ったものを生かして何事にも全力を尽くし悔いが残らないようにしたいと思う。
最後に後輩達へ
自分を知り自分を信じること
が上達への近道だと思います。
これからも健闘を期待しています。
す。頑張って!!

伝統ある東高陸上競技部で、活動がてきて本当によかったです。そして今後東高陸上部の名をもつと全国に轟かせてくれることを期待したいです。

僕が部活の事で一番言いたい事は、チームメイトや先生に対する感謝の気持ちです。いろいろお世話になつた先輩から愛

活動を通していく中で、先輩達とも仲良くなり、山を楽しめるようになりました。

男子テニス部

僕はとても元気で、三年間はとても楽しいものでした。仲間や先輩、後輩、先生に恵まれ充実していました。僕達が入部してから先輩方が引退するまでいろいろなことを教えてもらい、調子が悪い時にはアドバイスをくれたり、優しい言葉をかけてくれました。そんな先輩がいたから僕達は成長することができました。とても感謝しています。しかし、僕は先輩

自分達の代では、全国大会出場は叶いませんでしたが、後輩達の活躍を期待して、頑張ってほしいと思います。

山は、人を大きく成長させ、感動を与えてくれます。この体験ができたことを、そして、東高山岳部に所属したことを、今では本当によかつたと思います。

山岳部

今までとは違った場所で戦つて
いますが、卓球部で培つた根性
で乗り切つていけると思います。
後輩達には僕達が先輩から受け
継いできた伝統を引き継ぎ、そ
して自分達で新たな伝統をつくつ
ていいともらいたいです。

アーティストには変わり者が
多い、などとよく耳にしますが、
美術部の面々は真にその通り、
何處かネジのはずれた者ばかり
でした。先輩方や我々、後輩達
へとその精神は遺伝し、受け継
がれること幾星霜。そのおかげ

美術部

二年と数ヶ月の部活動を終えた今、感じていることは、大森

先輩方へ一言。お元気でしょ
うか。風邪などひいてないでしょ

うか。我々は、今までに貴方達の背中を追い掛けんとスタートラインに立っています。追い抜く勢いで走るつもりですが、振り返らずに突っ走って下さい。

後輩へ一言。我々は、貴方達に何か残すことができたでしょうか。我々を見てくれていた貴方達は、その目や耳で何を感じたのでしょうか。私には皆目見当もつきませんが、もしも何か感じたものがあつたのなら、その気持ちを大切にして下さい。

仲間達へ一言。我々はこれがら様々な困難や苦難にブチ当たり、時には負けてしまう事もあるかもしれません。ですが諦める事は絶対にあつてはなりません。負けたとしても、勝つまで諦めことはなりません。勝つまで闘うこと。これを胸に刻んでおきましょう。

最後に。全体的に真面目に書いてしまったので一つ無駄話をば。先日近所の猫になつかれました。勝手に名前を付けてやりました。いい気味だと思いました。

口の劇団の公演を観に行って本格的な演技に触れたりしました。こんな風に学べるチャンスが沢山あったにもかかわらず、充分に学べなかつた自分の部活に対する姿勢がとても心残りです。同好会の活動を通して一番感じたことそれは一つの物事をやり通す大きさです。中途半端なまま活動を終えてしまつたことへの後悔は悔やんでも悔やみきれません。だからこそ、これから先の人生において後悔のないよう精一杯やっていこうと思います。

最後になりましたが同好会を立ち上げるため協力して下さつた方々、顧問の伊藤先生、部員の皆様、今まで本当にありがとうございました。(横山 純里)

れました。だからこそ、後輩達には、今バスケットができる時間環境を大切にしてほしいです。そして、バスケットをもっと好きになつて、楽しみながらやってほしいと思います。

私は、小中学とほとんど変わらないメンバーで、一年学年十五人という多人数でやってきました。しかし、高校で私の学年は四人 + マネージャー一人の五人。そして、全く違う中学校。初めて不安でした。しかし、逆にその環境が私のバスケットに対する考え方を改めさせてくれました。人数は少なかつたけれど、いろんな意味で密度は濃かつたのでないかなと感じています。東高でバスケットができて、本当によかったです。

最後になりましたが、今までご指導して下さった、中村先生や菊田先生、矢澤先生には本当に感謝しています。また、私達が東高でバスケットができるのは、男子校から共学になった当時の先輩方の力があつたからだと思っています。私の高校でのバスケットは終わってしまいましたが、私のバスケット人生は終わりません。東高のOGとして、できる限りのことに協力していきたいと思っています。また、多くの人達にバスケットの楽しさ、よさを理解してもらえるような活動をしていきたいと考えています。

演劇同好会

西暦二〇〇二年の秋、我が福島東高等学校に演劇同好会が発足しました。顧問の伊藤先生を筆頭とする愉快な仲間達が集合し結成しました。発声練習や台本の読み合わせ、ビデオ鑑賞の他にも、高校の演劇大会に補助役員として手伝いに行ったり普

負けたとしても、勝つまで諦め
てはなりません。勝つまで闘うこと
を胸に刻んでおきましょう。

最後に、全体的に真面目に書
いてしまったので一つ無駄話をば。
先日近所の猫になつかれました。
勝手に名前を付けてやりました。
いい気味だと思いました。

女子バスケットボール部

今までの高校生活を振り返ると本当にバスケット一色だったなと感じます。今となつては、あれだけ自分の好きなバスケットができる事は本当に幸せだつたと思えますが、現役のころは、幸せという文字は有り得ませんでした。来る日も来る日もバス

口の劇団の公演を観に行って本格的な演技に触れたりしました。こんな風に学べるチャンスが沢山あつたにもかかわらず、充分に学べなかつた自分の部活に対する姿勢がとても心残りです。同好会の活動を通して一番感じたこと それは一つの物事をやり通す大切さです。中途半端なまま活動を終えてしまったことへの後悔は悔やんでも悔やみきれません。だからこそ、「これから先の人生において後悔のないよう精一杯やっていこう」と思っています。

最後になりましたが同好会を立ち上げるため協力して下さった方々、顧問の伊藤先生、部員の皆様、今まで本当にありがとうございました。(横山 純里)

女子バレー
ボール部

バレー部に入つて、辛かつたり楽しかつたりいろんな経験をしてたくさんのこと学ぶ事ができます。

女子バレー部

SFAアーメ同好会

に力を入れるため、様々な努力をしています。今までの同窓会では、楽しくゲームをしたり、英語で軽い会話をするだけでしたが、今年からは私たちにレポートの宿題を出したりパーティーを開いたり、ケーキを作ったり、新聞を作ったりと忙しそうです。私達も今までとは違う英語同窓会で苦労しながらも活動しています。ライアン先生はいつも英語の大切さを教えてくれる気がします。英語はこれから先私達の将来に必ず必要になるものだと思います。その英語に少しでも多くの触れる機会である、英語同窓会の活動を大事にしていきたいと思います。

SFAアニメ同好会

会誌の発行は年にほぼ二回、大きなイベントは東桜祭で展示発表、それに加えて公開文化祭では便せんも作りました。

同好会の会員はほとんどが部活をかけ持ちしていたのでこちらに重点をおいて活動することはできませんでしたが、その中で精一杯の活動がすることができます。今でも一生懸命作った会誌のページをめくる度に、その当時の苦労や先輩、友人の言葉をしつかりと思い出すことができます。

しかし私が三年になつてからは元々少なかつた会員が先輩方の卒業によって激減し、会誌を作

る一ともできず同好会を存続させたための会員がない状態でした。SFAアニメ同好会は歴史のある同好会であつて私たちの代でなくすことはできないと強く思っています。この場を借りて：在校生で少しでも興味のある方がいたら、ぜひ図書館にある会誌のバッカナンバーを読んでみて下さい。

好きな事をするためには、たくさんの努力と忍耐が必要だと身をもつて感じることができた三年間でした。しかし皆でそれを成しとげることは、それにも勝るものだったと思っています。活動にあたって協力して下さった先生方、先輩方、友人たちにお礼を言いたいです。ありがとうございました。（齊藤かおり）

ハンドボール部

部活を終えた僕が言えるのは、無理はないこと、常に意識を高く持つこと、常に意識を高く持つことの三つです。ここで注意しておきますが、これらは別に僕が現役の間に心がけていたことではなく、引退してみた今の僕が部活を終えて感じたことです。

継続すること。それはかの格言にもあるように、正に力になります。必ずなります。継続した努力は足し算ではなく、掛け算です。しかも特殊な掛け算で毎日努力と「数を掛け算」とによつて、ある日積みが大きく増える掛け算です。しかし毎日数を掛け

る無理はしないこと。ハンドボールの練習でも勉強でも何にしてでも、毎日自分のできることしかできません。それをわきまえてないと、何も事を成すことができません。身体が壊れますから。

人によって一日にできる量は違うということをしっかりと把握して、自分にできることをするのが大切だと思います。

常に意識を高く持つこと。自分が何をしたいのか？自分の立てた目標は何だったのか？このようないつの気持ちを常にもつこと。決して妥協しないこと。

井の中の蛙にならないこと。

自分が何をしたいのか？自分の立てた目標は何だったのか？このようないつの気持ちを常にもつこと。決して妥協しないこと。

実際に、これまでの水泳部の活動で得たものは期待したもの以上でした。精神力や体力を養うというスポーツ本来の目的はもちろんですが、それ以上の収穫は個性豊かな仲間に出会えたことです。基本的に個人競技であり、ある意味では自分自身が相手とも言える水泳の世界には、精神的に自立した個性的な人が多く、その中で先輩後輩などの上下関係が築けたと思っています。彼らと一緒に練習し、大会に出て、時には下らない事もした一年半は、これから先の自分の人生の基盤となる事は間違いないません。

現在水泳部は部員の数がそれほど多くなく、時には物足りなく感じる事もありますが、反面少人数だから出来る事もあります。今は頼もしい下級生達が頑張ってくれているので安心です。これから先も一人一人の持ち味を十分に發揮できる水泳部であつてほしいと願っています。

悔しさは残つてしまつたが、悔しかつた。悔いは絶対残さない、と決めていたのに残してしまつた。

悔しさは残つてしまつたが、悔しかつたことだとと思う。それでいて負けてしまつたのは、どこか妥協していた面があつたからよかったです。だから後輩達には、だと思う。だから後輩達には、今の自分に満足しないで、貪欲になれたことは、自分にとってよかったです。最後に顧問の先生方、先輩方、三年生のみんな、いろいろありがとうございました。（山川 大輔）

水泳部

六月二十四日から二十七日までの四日間、いわき市民プールでの福島大会が、僕の水泳部員としての最後の競技となりました。個人種目である百メートル自由形と、団体種目である四百メートル自由形に出場し、どちらもベストを尽しました。

福島東高校に入学した僕を水

ハンドボール部

この三年間、僕は、本当にいい経験ができたと思っています。

中学の時もバドミントン部だったが、これほど熱中できるとは思つてもいなかつた。

一年のインターハイの時、僕は団体戦のメンバーに選ばれ、先輩と組んだダブルスで接戦を制し、県北二位で団体県大会出場を決めることができた。あの時の試合は今でも思い出すことの大切だと思います。

実際に、これまでの水泳部の活動で得たものは期待したもの以上でした。精神力や体力を養うというスポーツ本来の目的はもちろんですが、それ以上の収穫は個性豊かな仲間に出会えたことです。基本的に個人競技であり、ある意味では自分自身が相手とも言える水泳の世界には、精神的に自立した個性的な人が多く、その中で先輩後輩などの上下関係が築けたと思っています。彼らと一緒に練習し、大会に出て、時には下らない事もした一年半は、これから先の自分の人生の基盤となる事は間違いないません。

現在水泳部は部員の数がそれほど多くなく、時には物足りなく感じる事もありますが、反面少人数だから出来る事もあります。今は頼もしい下級生達が頑張ってくれているので安心です。これから先も一人一人の持ち味を十分に発揮できる水泳部であつてほしいと願っています。

悔しさは残つてしまつたが、悔しかつた。悔いは絶対残さない、と決めていたのに残してしまつた。

悔しさは残つてしまつたが、悔しかつたことだとと思う。それでいて負けてしまつたのは、どこか妥協していた面があつたからよかったです。だから後輩達には、だと思う。だから後輩達には、今の自分に満足しないで、貪欲になれたことは、自分にとってよかったです。最後に顧問の先生方、先輩方、三年生のみんな、いろいろありがとうございました。（新関 拓也）

僕は東高でバドミントンができてよかったです。（山川 大輔）

僕は東高でバドミントンができてよかったです。（新関 拓也）

僕のソフトボール部での三年

サッカー部

高校サッカーは、実に短いものだと最後の選手権を目前に控え、思い始めた。

昨年の全国大会でPK戦で負けたあの日から、僕たちの目標は、先輩方の果たせなかつた「国立」に決ました。しかし、いざ練習を始めてみると、どうしたらしいかわからず、時間だけが過ぎていった。先輩方が引退してからという日々は本当に早いものだった。悩んでいるとあつという間に大事な時期が来てしまつ。悩むのも必要だが、今は先輩たちの分まで頑張ろうと、一年後のインターハイを目指した。

迎えた最後の大会。僕は「絶対勝つ」という気持ちで試合に臨んだ。しかし結果は僕のダブルスが負けてしまい、団体県大会出場を果たすことができなかつた。

悔しかつた。悔いは絶対残さない、と決めていたのに残してしまつた。

悔しさは残つてしまつたが、悔しかつたことだとと思う。それでいて負けてしまつたのは、どこか妥協していた面があつたからよかったです。だから後輩達には、だと思う。だから後輩達には、今の自分に満足しないで、貪欲になれたことは、自分にとってよかったです。最後に顧問の先生方、先輩方、三年生のみんな、いろいろありがとうございました。（新関 拓也）

僕は東高でバドミントンができてよかったです。（山川 大輔）

僕は東高でバドミントンができてよかったです。（新関 拓也）

僕のソフトボール部での三年

七回まで無得点。しかし七回、我々は先制した。だが八、九回と相手に得点を許し、結果は一対二で敗北した。我々の夏のドラマは第一話で終わった。

今までご指導いただいた先生や先輩、そして支援していただいた両親、共に戦った仲間たちには感謝の気持ちでいっぱいです。また後輩たちは、甲子園とう舞台で歌う校歌を何度も響かせてほしい。（赤間　享）

生物部

七回まで無得点。しかし七回、我々は先制した。だが八、九回と相手に得点を許し、結果は一対二で敗北した。我々の夏のドラマは第一話で終わった。

今まで「ご指導いただいた先生や先輩、そして支援していただいた両親共に戦つた仲間たちには感謝の気持ちでいっぱいです。また後輩たちには、甲子園とう舞台で歌う校歌を何度も響かせてほしい。(赤間 享)

弓道同好会

願っている。（大堀 信一）

弓道同好会 部活、いや同好会が動き始め
て早一年半。創立されてから歴史は浅い（本当は昔にもあったらしい）が、他校の弓道部にせまるような成績をおさめた大会もあった。もちろん、がんばった選手たちの手によるものが大きいと思うが、同好会を設立してくれた先輩、先生方、また指導をしてくれた先生、さらには県工でお世話になった、先生、先輩方などのお力添えがあつてこのものだと思う。先輩、先生方には感謝してもしきれない。それほど多くのことが、三年間の間にあつた。時には練習が嫌になる時があるかもしれない。しかし、それを乗り越えたとき得られるものは大きいと思う。後輩のみんなにも、是非挑戦してみてほしい。最後に、三年間一緒にがんばってきたみんなに感謝したい。（齋藤 竜也）

社会部 果てなく大きな暗澹たる不安と、チリともつかない微々たる期待を、気概だけはいっぱいの空虚に押し込んで、この虚しくも愚かしいパーティーは始まった。初めは懇意善く、徐々に表立て忌み、そして遂には存在否定。異端に内包された儘を諦觀し得ず、許容すらし得ない傀儡の豚

社会部

願っている。（大堀信二）

JRC部

じむの中で唯一、口が口であることを常に問いかけていた。
それはあまりに稚拙で、あまりに滑稽で、何よつあまりに愚笨だった。それを解したからといって何がが変わるわけではなく、何かを変えられるわけでもなかった。
絶えず感じ続ける苛立た、焦燥、煩累、そして自嘲。
深淵なる絶望の上に、薄氷に支えられているが如き世界が横たわっている。そんなものを傍観したいわけではない。墮ちた世界に同調せざるを得ない失望にも似た悲觀を忿つ傍ら、外殻だけを彩つた呪わしい関係を結び続ける傀儡たちに、根源的な一抹の同情と、吐き気を催すほどの嫌悪を感じてい。

矛盾とも、両儀とも言えるが、なんどこの精神を誤謬のまゝ形骸のままに無機化させてこぐ。そこに道標はなく、当然のように終着もない。蹂躪された負け犬には、従順になる力すらも残されない。

JRC部

JRの船では、今、駅前清掃に参加したり、校内に箱を設置して切手やプリペイドカードの収集を行っています。今現在、部員が一人なので、なかなか活動

矛盾とも、両儀とも言えるが、らんどうの精神を誤謬のままに、形骸のままに無機化させていく。そこに道標はなく、当然のようにな終着もない。蹂躪された負け犬には、従順になる力すらも残されない。

どもの中で唯一、己が己であることさえも認識できない人間以下になにかは、そこに在る意義を常に問いかけていた。

それはあまりに稚拙で、あまりに滑稽で、何よりあまりに愚鈍だった。それを解したからといって何がが変わるわけではなく、何かを変えられるわけでもなかつた。絶えず感じ続ける苛立ち、焦燥、煩累、そして自嘲。

深淵なる絶望の上に、薄氷に支えられているが如き世界が横たわつてゐる。そんなものを傍観したいわけではない。墮ちた世界に同調せざるを得ない失望にも似た悲觀を忿う傍ら、外殻だけを彩つた呪わしい関係を結び続ける傀儡たちに、根源的な一抹の同情と、吐き気を催すほどの嫌悪を覚えていた。

写真部

動ができないのが現状です。これから、部員数を増やし、もつといろいろな活動をしていくからだと思います。

剣道部

部活であると思います。スキー部の紹介をします。部員は一人私だけです。現在大変な部員不足です。募集集中なのでよろしくお願ひします。今後も頑張りたいと思うので応援よろしくお願いします。

（坪井 大介）

スキ部

動ができないのが現状です。これから、部員数を増やし、もつといろいろな活動をしていくからだと思います。



銀賞

第47回 全日本吹奏楽コンクール東北大会

[2004年8月28日 青森市文化会館]

創立二五年の今年、福島東高に、また新たな記録が加わりました。吹奏楽部・合唱部Wでの昼夜を通しての練習の結果がこのような形として表れたのだと思います。

吹奏楽部は、東北大会出場が十一回ぶり（九回目）ということもあり、出場が決定した際の喜びはひとしおだったと思われます。合唱部にいたっては、二年連続（六回目）の出場となりますが、「合唱王国福島」と呼ばれるほどレベルの高い本県の地区大会を突破しての東北大会出場は素晴らしい記録です。

現在、両部の部員数は、吹奏樂部員一〇九名・合唱部員五十三名、計一六二名、全校生徒が五六人ですから、約六人に一人はどちらかの部に所属していることになります。この人数をまとめ、結果を残す、顧問の先生方の情熱と苦労は並みのものではないと思います。

先人達の築いてきた大きな土台の上で、現在の東高生達は、より善きものを目指し日々精進しています。

「新しい伝統」、常に上を目指す福島東高の活躍から、運動部・文化部共に今後も目が離せません。

**吹奏楽部・合唱部
東北大会出場**

吹奏楽部 ・ 合唱部 特集

吹奏楽部

演奏曲目

課題曲

「祈りの旅」

作曲者 北爪 道夫

自由曲

「サウンドバリアー」

作曲者 M・アーノルド

指揮 佐藤 恵一



指揮 指揮 佐藤 恵一

合唱部

演奏曲目

課題曲

「樹氷と風と」

(「星の生まれる夜」から)

作詩者 橋爪 文

作曲者 萩原 英彦

自由曲

「MISSA BREVIS」より

「CREDO」

「SANCTUS」

作曲者

KNUT NYSTEDT

指揮 佐藤 恵一



銅賞

第57回 全日本合唱コンクール東北支部大会

[平成16年9月24~26日 山形県民会館]

サッカーチーム

特集

第八十二回全国高等学校
サッカー選手権大会に出場して

福島東高校サッカー部

監督 齊藤 勝

インターハイから帰つて来る
と県選抜選手七名は合宿に参加
するため別行動となる時間が多
くなつたが、県選抜は過去二年
間は自分が監督をして国体の出
場を逃していたので、選抜選手
七名には県の代表としての誇り
をもつてチームに貢献し国体の
出場権を獲得するよう、お願ひ
して送り出した。

天皇杯の予選を選抜選手抜き
で戦わなくてはならなかつたが、
選手権大会や新人大会のことを
考えると選手の層を厚くするに
はいい機会と考えて臨んだ。後
からレギュラーを出場させ、
対戦相手は古河電池、準決勝は
福島大学、決勝はノーザンピー
クスと福島県の社会人の強豪と
対戦することができ、しかも夏
場の九〇分ゲームを行うとい
ふもならなかつた。福島県の一
種の現状に寂しさを感じた。
秋にはいよいよ本番の高校サッ
カーリーグ大会がはじまるのに、
十月、十一月は一番つらい時期

となつた。それは高校生が一年
間、トップコンディションを維
持しつづけることの難しさを痛
感した時期であつた。

九月中旬には静岡国体に七
名が出場した。当然応援に行き

感した時期であつた。

初戦の福岡戦では六名が先発出
場した。どの選手も動きが良く
勝利に貢献していた。特に遠藤

賢太はキレのある突破からのパ
スは見事で運動量も豊富で私が
選ぶならマンオブザマッチであ
る。萬代は二得点し大友もキレ
のあるドリブル、國嶋は広範囲
に顔をだしボールをさばいてい
た。あのプレーを見ていれば何
の不安もなかつた。ましてや國
体終了後は仙台カップに五名
(萬代、遠藤、大友、大原、柳
原)が選出され日本代表やブラ
ジル代表、イタリア代表と国際
試合の経験を積むことができた
のである。選手は大きく成長し
てチームに戻るわけだからチー
ムは必ず強くなると確信してい
た。ところが、状況は違つてい
た。仙台カップが終わり、中間
テストも終了し選手権大会の二
次大会一週間前なので山形の羽
黒高校と練習試合をおこなつた。
が、選手の動きも悪く完敗だつ
た。テスト明けだから仕方がな
いなと思い、一週間後に佐野日
大高校の胸を借りた。時折リズ
ミングになつたが、勉強には
ことで貴重な体験となつた。し
かし、夏場のフィジカルトレ
ーニングにはなつたが、勉強には
何もならなかつた。福島県の一
種の現状に寂しさを感じた。

高校生かなと思つた。選抜選手

は成長して帰つてきたはずなの
に、約二ヶ月(テスト期間を含

む)一緒にプレーしないことが
こんなに大きな歪みをもたらす
とは想像できなかつた。すでに
大会は一週間後に迫つていた。
一次大会が始まつた。東高校
が会場だったので対戦相手を選
手に見せた後練習の予定だつた。
対戦相手になつた磐城高校の試
合を見たとき、まずいなと思つ
た。高校生にとって初戦は鬼門
だ。磐城高校は選手の動きが悪
く最悪の状態だつたがなんとか
勝利をものにしたのである。明
日は磐城は絶対違うのに今日の
試合を見せてしつまた。いやな
予感は的中した。「点を先行す
るが勢いは磐城にあり、セカン
ドボールは殆ど拾われ、苦しい
状況の中、一点返された。何と
かしのいで残り時間がなくなつ
てきないので、「コーナーキープの
指示を出し何とか逃げきつたと
思ひきや不用意にボールを失い
ロストタイムで追いつかれたので
ある。最悪の展開に普通のチー
ムなら暗く落ち込み、沈んだベ
ンチになるのに、このチームは
違つた。開き直りもあるが「点
取れればいいんじょ」とたく
ましい答えが返つてきた。結局、
交代投入した選手がそれ得
点し何とか勝つた試合だつた。
うまきいかない原因がなんと
なくわかつてきた。チームが成
長してきたが、それぞれのサッ
カービー観が同じ方向性ではなく
ていると感じた。プロでやる選

手、大学でやる選手、高校で終
わる選手、進路もバラバラにな
り大学受験のため週末は殆ど模
擬試験。課外を受けてから遅れ
てくる選手も多い。進学校の難
しさを感じた。

それでも、これで終わるわけ
にはいかない。ただひとつ皆が
一致している目標があるのでだ
から。それは当然、全国大会に出
場して勝つことである。簡単に
調子が戻るわけではなく選手も
それを理解し、夏までの華やか
なサッカーから耐えながら勝機
をものにしていく泥臭いチーム
に変化していく。決勝トーナ
メントの準決勝まではスコア的
には楽に見えるが、内容的には
勝負強さで勝つていつたもので
ある。決勝の郡山北工業は選手
も認めるチームワークの良い好
チームである。苦戦は予想して
いたので、内容は私も選手も気
にしていなかつた。勝負強さを
発揮した。ただ、それだけである。
全国大会で決めて重荷がと
れたのは私だけだったのだろう
にしていた。勝負強さを

チームで決めて重荷がと
れたのは私だけだったのだろう
にしていた。勝負強さを

全国高校サッカー選手権大会の記録					
平成14年度					
1回戦	2回戦	3回戦	準々決勝	準決勝	決勝
1 (PK 5-4)	2 (PK 1-0)	3 (PK 1-0)	準々決勝 (PK 1-1)	準決勝 (PK 2-4)	決勝 (PK 2-4)
大分(大分) (崎玉県)	武北(新潟県) (神奈川県)	南越(新潟県) (川井)			
平成15年度					
1回戦 (PK 1-2)	2回戦 (PK 1-1)	3回戦 (PK 1-1)	準々決勝 (PK 2-4)	準決勝 (PK 2-4)	決勝 (PK 2-4)
高松丸(香川県) (高松丸)	北岡(福岡県) (北岡)	北岡(福岡県) (北岡)			

(全国高校サッカー選手権大会出場への募金状況(同窓生分))

○平成14年度：3,698,777円（協賛者数：977名）

*その他 同窓会会計から150万円の援助

○平成15年度：3,182,333円（協賛者数：853名）

*その他 同窓会会計から100万円の援助

数多くの同窓生からのご支援、また、心温まるメッセージを寄せさせていただきありがとうございました。

全国高校サッカー選手権大会寄付金のお礼

全国高校サッカー選手権大会では、同窓生の皆様から心温まる寄付金をいただき誠にありがとうございました。皆様のご支援のお陰で非常に良い準備ができ、大会に臨むことができました。結果は2回戦敗退でしたがベストを尽くすことができました。

来は2回戦敗退したがベストをぶつけたことがござりました。
一昨年は選手は、何も知らないで(陰の支えがあるということ)
も)ただ無欲で頑張り続けた結果、ベスト8という思いもしなかった
結果を残すことができました。福島へ帰ってくると、想像しな
かったほどの反響があり、多くの方々の支えがあったからこそ良
い結果が残せたことを実感しました。

い結果が残したことを笑美じよした。今日は、福島東高校の代表であること、福島県の代表であることの自覚を持つことと同時に多くの同窓生や保護者の期待があること、寄付金を集めに走り回っている人がいること、あるいは頭を下げてくれていている人がいること、東高校でサッカーがしたいと夢をもっている子供がいること、地域の方々が心から応援してくれていること等の陰の支えがあることに感謝し、その思いを背負いながら大会に臨みました。この経験は何ものにも変えがたい貴重なものでした。

本当にありがとうございました。

福島東高校サッカー部監督 齋藤 勝

当時のことはまだ鮮明に覚えていた。ピッチに続く階段を登っていくと、だんだんと大きくなっていく日本一の応援が僕たちを熱く迎えてくれた。

きなかつたことは悔しいが、また
強いチームを作つて頑張りたい。
最後にいろいろと応援してくれ
ださつた皆様ありがとうございました。

平成十四年度大会に参加して

今、そしてこれから東高サッカー部の後輩たちに言いたい。
決して全国は雲の上じゃない。
一人一人がどれだけ上に行きた
いと思うかにかかるといふと思つ。
そして毎日の練習で向上心を持つ
てプレーし、東高サッカー部であ
ることを誇りに思つてもらいたい。

僕は、ピッチの上で活躍する大久保選手を見て父に「絶対全国に連れてきてやるよ」と言った。それが叶つたことが最高に幸せだった。

にある。そして全国という大舞台が選手一人一人を大きく成長させたからだろう。あの全国という経験がみんなに大きな影響を与えたのは間違いないだろう。

僕は当時、もう一つ嬉しいことがあった。それは高校一年のとき全国大会を見に行つたときの父との約束が果たせたことだ。

ほとんど無名で下馬評もそれほど良くなかった僕たちがベスト8という快挙を為し遂げる」とが出来たのは、常にチャレンジャー精神を維持できたところ

然ではなく必然だつたと今も思つ。後半は自分たちの色を出せたと思うし、負けるという思いは少しもなかつた。全ての試合でその想いは変わらなかつた。
試合の前後、勝先生は特別なことは言わず、「いつも通り」
「次の試合は考えず、まず明日取る」僕たちは、全ての試合でこの言葉を頭に置いて戦つた。

玉で出でしまつた。それが二点を先制されたことに大きく表れている。しかし、初戦突破は偶

平成十五年度大会に参加して

サッカー部主将 柳原圭

もし、誰かに夢は？と聞かれたら「全国大会優勝です」と言えるようになつてほしい。

大会での成績は決して満足のいくものではありませんでした。が、多くの方々に支えられ、応援されたなかで全国に挑戦できました。私たちは幸せだったと今となって心から思います。そして、皆様にはこれから後の輩達、そしてプロに挑戦している仲間に変わらぬ応援をお願いします。

平成16年度 転出者

職名	氏名	教科	転出先
教頭	栗原孝明	理科	只見(校長)
教諭	矢部邦子	国語	退職
教諭	小杉浩策	国語	退職
教諭	菅野公晴	理科	退職
教諭	黒澤元省	保育	退職
司書	丹治みさ		退職
教諭	井戸川方志	地歴公民	安積黎明
教諭	八巻淑子	国語	郡山萌世
教諭	渡部光子	数学	保原
教諭	山岸淳一	数学	仙台一
教諭	伊藤泰史	数学	福島四中
教諭	本田伸良	英語	安達
常勤講師	佐藤博之	英語	梁川
常勤講師	伊藤悠治	数学	喜多方工業
常勤講師	佐藤涼子	家庭	退職
常勤講師	齋藤こずえ	理科	退職
PTA事務	大関由美		退職

私は、平成十三年四月より十六年三月までの三年間教頭として勤務しました。会津出身の私は、初めての県北で、それこそ西も東も解らない状態からのスタートでした。

赴任して、まず感じたのは部活動が非常に盛んな学校であることでした。夜七時半からの機械警備のために、校舎内の吹奏楽部員を追い出し、体育館の運動部員を追いかけるのが毎日の仕事でした。今年も各部の活躍を聞くにつれさすが東高と思って

いました。私は、文武両道の学校と思いまして、科学技術を学び将来の日本を支える人材がもっと東高から出てもよいと思います。

最期の年の公開文化祭も東高は驚きました。これも文武両道の成果だと思います。学習も部活動も日々の鍛錬の賜物と思います。東高校の今後

転出・転入者

平成16年度 転入者

職名	氏名	教科	前勤務先
教頭	高橋朝晴	地歴	光南
教諭	梅宮康弘	国語	福島北
教諭	中村充幸	国語	湖南
教諭	今野充宏	地歴	安達
教諭	斎藤欣也	数学	福島北
教諭	高橋賢	数学	仙台一
教諭	関川博巳	保育	梁川
司書	木伏幸子		川俣
常勤講師	佐藤勝彦	理科	新任
常勤講師	佐々木真希子	保育	新任
常勤講師	力丸裕樹	英語	安達
常勤講師	若林明美	数学	新任
養護助教諭	柴崎華奈		新任
時間講師	岡崎政朝	理科	
時間講師	佐藤香織	音楽	
兼務講師	吉田孝夫	地歴公民	
兼務講師	大槻文彦	理科	
PTA事務	金田由利子		新任

います。

ますますの発展を願っています。

しかしこれは大変なことだ。

安積黎明 井戸川方志

東高の良い所は、様々な事に

それこそ勉強に、部活に、行事に、「いつも頑張りまくり」

の状態を強いられる。が、その結果として手応えのある三年間

頑張れるという点である。「文武両道」は東高の「合言葉」で

あるが、それとも、東高に

あってはいつでも目標なのである。しかし、その実現を目指し

て生徒も教師も共に頑張れるか

らすばらしいのだ。部活ばかり

ではない。行事に打ち込む姿勢

も自負していいことだ。そして

東高の何よりも優れている点は、

切り替えができると言つことだ。

定期考查前や三年の部活引退後の受験への切り替えとその集中力は誇つてい。

力は誇つてい。

「忘れぬ思い出」

郡山萌世 八巻 淑子

平成六年四月、二年生だった男子校最後の一五期生との出会いが私にとって九年内の東高生の始まりです。学生服に包まれる悲嘆を、挫折の多かった杜甫の生涯と重ね合わせながら、ソシオドラマ(心理劇)に仕立ててみました。感想文に「恥ずかしかつたけれど、役を演じることで登場人物の苦しみが分かつたような気がする。」と、ある生徒が書いてくれたのをうれしく思い出します。

それから一年後、男女共学一年目の一七期生を担任しました。気負ったせいかクラスの緊張がなかなかほぐれなかつたため、五月の連休を利用して「四季の里」でレクリエーションを楽しんだ事が忘れられません。二年生では、長崎の修学旅行を文集に残すことが出来て、良い思い出になりました。三年生では、自立心の強い生徒たちのバイトリティー溢れる受験勉強ぶりに感心し、思い出深い三年間を過

れた黒ずくめの集団は、貴公子然とした外見の内側に一途な純情を秘めた若者たちでした。部活動と勉強に明け暮れる彼らは予想以上に生活経験が限られており、小説などに登場する様々な立場の人物像やその心情理解を苦手としていました。漢文の授業で杜甫の「石壕吏」という漢詩を扱った時、戦乱に翻弄される老いた農民が次々と息子を失い、老婆まで戦場に駆り出される悲嘆を、挫折の多かった杜甫の生涯と重ね合わせながら、ソシオドラマ(心理劇)に仕立ててみました。感想文に「恥ずかしかつたけれど、役を演じることで登場人物の苦しみが分かつたような気がする。」と、ある生徒が書いてくれたのをうれしく思い出します。

「アリヤがどうもつた。

平成十三年四月、二回目の担任として二期生をあずかることになりました。この時は、私の妊娠流産と波乱続きで、入学早々生徒たちに大変不安な思いをさせてしまったことを申し訳なく思っています。しかし、この出来事で生徒の思いやりや優しさを実感し、それからの三年間で、より強い絆と信頼感を築けたような気がします。

私にとって福島東高校生との出会いは、忘れえぬ生涯の思い出として心に刻まれ、大切な宝物となっています。

一生懸命働きました。
すばらしい思い出と明日への
希望と充実感を抱いて退職でき
ましたこと、何よりの幸せと感
謝しております。今は絵を描い
たり、お茶を点てたりして静か
な日々を送っています。

どうぞ 皆様、それぞれの道
で精一杯、誠実にお励み下さい。
ご健勝をお祈りしております。

梁川高等学校 佐藤 博之

東高での思い出は、放課後、
生徒が居残り勉強をしている風
景です。暗くなつても、なかなか
か帰路につかず、粘り強く勉強
をする姿に驚かされました。ま
た、卒業生の来校の多さに驚き、
彼らの口から発せられる言葉の
節々に愛校心が滲み出していたの
が印象的です。勉強に力を入れ、
た環境の中で、多くの生徒が部
活動を両立させ、上位の成績を
収めているということは、志を
高く持つて努力すれば、希望は
叶うのだと、東高生に教えられ
た気がします。こうしたすばら
しい校風をぜひ受け継いでいっ
てほしいです。

四月の図書館オリエンテーション時の一年生の目の輝き、受験体制に入った三年生の真剣な面。差しで机に向かう姿、本を捲いてきた生徒の皆さんとの貸出力、センターでの会話など、それぞれの場面が脳裏を過ぎります。東高の図書館は、環境、資料の面でもよく整ったよい図書館だと思います。そんな図書館を利用することにより、本好きの生徒がより多くなることを願うと共に、今後も皆さんの活躍を期待し、応援しております。

く思い出します。二十周年行事、東桜祭、部活等々勉強だけでなく多才で活力ある行動に共学校として着実に成長している事をを感じ頗もしく思つたものです。担任した子供達はもちろん共に時を過ごした先生方生徒達に助けられ素晴らしい思い出を作ることができた事に深く感謝いたしております。東高の今後の更なる輝きをお祈り申し上げております。

り、決して忘れるのできない学校です。お世話になつた先生方、その他の多くの方々、多くの生徒に対しても本当に感謝しております。そして、これからも東高生の「活躍を陰ながら応援しています。



おめでとうございます

三浦賢一先生

瑞寶小綬章受章

本校発展に尽労された三浦賢一先生が平成十六年四月に瑞寶小綬章を受章されました。三浦先生は本校開設事務局員として、東高開設の準備にあたられたのち、教諭として二年間、また、平成三年度から第五代校長として三年間勤務され、東高の発展の礎を築かれました。毎年、その副賞（『広辞苑』）は現在でも先生から贈られています。

九月十一日には、福島ビューホテルにおいて、三浦先生の受章祝賀会が盛大に開催されました。数多くの出席者の方から、三浦先生の功績を讃える言葉がありました。また、出席者には記念品として、長田弘（校歌作詞者）著『深呼吸の必要』、『一生 教え子よりのメッセージ』が贈られました。

「東高は新しい学校です。この学校を作っていくのは君たちです。私たち教員と一緒に新しい伝統を築いていこうではありますか。」これは三浦先生がある中学校で開かれた学校説明会で中学三年生に呼びかけた言

葉です。東高という素晴らしい学校をつくるのだといふ三浦先生の情熱にうたれて東高進学を決めた生徒も多くいました。東高創設の父ともいふべき三浦先生の瑞寶小綬章の受章は同窓会にとっても大変に光榮なことであります。最後になりますが、長年の三浦先生の功績に対しまして心より敬意を表させていただきます。

教育実習生

大槻 雪乃

今春、大学院に進学し強く感

“福島東高校”自分の大好きな誇れる母校で教育実習が出来本当に幸せ者です。何にでも夢中に取り組む生徒の姿が凄く輝かしく見え、自分もその中で実

安齋 麻実

福島東高校一同、無事この会報を発刊することができ、一安心しております。

福島東高が創設され早二十五年。第一期生は今年で四十歳になるわけです。東高を卒業し、各種の第一線で活躍される皆様にとつてはきっとこの二十五年は短かったように感じるのではないか。どうやがれました。

今、この編集後記を綴つてゐる私の手元には「東高だより」の第一号があります。その第一面の写真には、「翔け二十一世纪に向って」とのタイトルと共に、桜・プレハブ小屋・ただの荒れ地が写っています。これが

じていたのは「今の自分の原点は東高ではないか」といつてだつた。それは、大学受験に失敗した私に短大からの編入学を薦めた恩師の存在もあるけれど、東高という学校全体が今の自分の基礎を作ってくれたと思うからだ。

この二週間、生徒と変わぬ厚い指導を受け教育実習を終えることが出来た。きっと、先生方の熱意と生徒の向上心とがぴったり重なったとき、東高は一つの殻を破り新たな輝きを増すことになるのだと思う。

習ってきて、少し輝けたような気がします。授業をするのは不安の連続でしたが、「先生頑張って!」の一言が大きな支えとなっていました。生徒と先生方、そして福島東高校に感謝の気持ちでいっぱいです。



編集後記

私は、東高生のスタート地点でした。

時は流れ、二十一世紀を迎えた。男臭かった校舎には、女子の爽やかな風が舞い、グラウンドは整備され、今年新たな照明が設置されました。当時と変わらないのは風に舞う桜吹雪と浜田町に根づく東高魂だけです。

この東高魂を消さぬためにも、今後、この会報を通して、同窓生同士の繋がりが増えていくべきだと事務局では考えています。最後になりますが、事務局では、会報に対しての感想等、皆様からお便りを頂けることを待ちしております。

是非、氏名及び何期卒業かを明記の上、事務局までご連絡下さい。

佐藤 謙
楽しかった。授業への緊張感や、指導案に迫られる毎日の中にも、自分なりの大きな充実感が沸き上がっていた。しかし、生徒の笑顔を見た時、疲れがふつとんだ。これが教職者のエネルギーの源であり、原点なのだと想ふ。東高でよかつた。そう切実に感じた二週間だった。